

議 長 休憩を解いて再開をいたします。 (10時30分)

引き続き一般質問を行います。その前に先ほどの齋藤議員からの質問に対して、総務課長より説明があります。

総務課長 先ほどの齋藤議員の一般質問での御報告をさせていただきます。あんしんメールの登録件数でございます。2,650件でございます。ちなみに、観光メールでの登録件数は405件ということでございます。以上でございます。

議 長 それでは、受付番号第9号、鈴木眞徳君の一般質問を許します。登壇ください。

11番 鈴木 一般質問の前に、町長、副町長いられるもので、先にちょっと一言だけ。4階のトイレ、男子トイレ入っていただきたいと思います。これはね、6月の議会もそう。9月の議会もそう。で、きのう傍聴がこれだけ来られたら、並んでるという状況でございましたので、ぜひ一回入っていただいて、どういう状況か見ていただきたいと思います。代表して、議員を代表して言わせていただきます。

それでは、議長のお許しいたいただきましたので、一般質問させていただきます。受付番号第9号、質問議員、11番 鈴木眞徳。件名、高齢者の生きがい・健康づくり対策について。

要旨、敬老祝金の見直しが行われましたが、そこで捻出されるであろう財源の活用なども踏まえて、新たな高齢者の生きがい・健康づくり対策について、町の今後の方針を伺います。

(1) 高齢者がふえている中で、松田における、まだ老人クラブと言ってるか、私、ここにシニアクラブって書かせていただいたんですけど、シニアクラブの会員数や活動状況はどのようになっていますか。

(2) 娯楽が多様化している現代においては、特定の活動に縛ることは難しいと思われませんが、シニアクラブにおける今後の活動を後押しするためにも、国が主催する全国健康福祉祭、通称「ねりんピック」の種目などを参考に、パークゴルフ場の18ホール化や健康マーじゃんなど新しい事業の環境整備など、団体と連携しながら町も検討できませんか。

以上の点、お願いします。

町

長 それでは、鈴木議員の御質問に順次お答えをさせていただきます。敬老祝金の見直しについては、高齢者の平均寿命の伸びや社会情勢を勘案し、時世に即した祝金とすることを目的として、本年第1回松田町議会定例会において条例改正案を可決していただいたところでございます。産業厚生委員会のほか、審議過程において、この見直しによって生じる余剰金についても議論をいただき、町の将来人口推計では平成32年度をピークに高齢者人口は減少に転じますが、積算時点での該当者が全員御存命であるということを仮定して、77歳で受給された方が80歳となる平成31年度から33年度の3年間は年間約390万円、34年度以降は年間約200万円と試算し、高齢者のために使うようといった御意見をいただいております。

また、松田町第7期高齢者福祉計画においては、アンケート調査等の結果に基づく課題の一つといたしまして、介護予防を含めた総合的な健康づくりの推進を導き出し、基本目標3として「高齢者が生きがいを持ち健康で活躍できる地域の実現」を位置づけております。この中で、高齢者が年齢にとらわれることなく、生きがいを持って活躍できるよう、ボランティア活動や就労、余暇活動を初めとする高齢者の社会参加活動を通じて外出を促進することが重要であるとしております。また、県の施策として、未病を改善する要素として、食と運動と社会参加があり、健康寿命の延伸のために必要な要素の一つとなっております。

それでは、1つ目の御質問にお答えをさせていただきます。シニアクラブ松田については、高齢者福祉計画の基本目標3の中に生きがいづくり・生涯学習の主要事業の一つ、老人クラブへの支援として位置づけております。シニアクラブ松田は、松田町老人クラブ連合会として昭和59年に設立され、事務局を松田町社会福祉協議会が担っており、平成29年度に改称されています。平成12年度には地域クラブ11団体で会員数は665名でありましたが、平成30年度は地域クラブが3団体で170人、本部直轄の個人会員が60人で、合わせて230人の状況でございます。平成29年度に地域クラブがない地域の方を中心に、個人会員制度を創設し、会員の確保を図っていただいております。本部直営の事業といたしましては、パークゴルフ、カーレット、カラオケ、合唱、映画鑑賞の5種目

が月例で行われ、ハイキングや旅行なども実施しておられます。高齢化に伴い、地域クラブの担い手が減る中、個人会員をふやし、趣味に応じてクラブ化を図ることにより、本部直轄事業から転換をしたい意向があると伺っているところでもございます。いずれにいたしましても、シニアクラブ松田の皆様方の活動には感謝と敬意を表します。

次に、2つ目の御質問にお答えをさせていただきます。まず、既に御承知のこととは存じますが、全国健康福祉祭、先ほど愛称はねりんピックについて概略を説明いたします。ねりんピックは厚生労働省、開催都道府県、一般財団法人長寿社会開発センターが主催となり、スポーツ種目や文化種目の交流を初め、健康や福祉に関する多彩なイベントを通じ、高齢者を中心とする国民健康保持・増進、社会参加、生きがいの高揚を図り、触れ合いと活力のある長寿社会の形成に寄与するため、厚生労働省創立50周年に当たる昭和63年から毎年開催されております。この文化種目は、囲碁、将棋、俳句、健康マージャンで、鈴木議員が御提案いただいた健康マージャンは平成19年に茨城県で開催された第20回大会から正式な種目となっております。この健康マージャンは、賭けない、飲まない、吸わない、健康的な競技で、統一的なルールもあり、脳の活性化に効果的な頭脳ゲームの一つとして、さまざまな自治体で取り入れていることを承知しております。

総合計画の団体ヒアリングの中で、シニアクラブ松田では会員や加入される方々のニーズに沿った形で種目をふやしていきたいようでございますが、クラブ活動のリーダーとなる人材と必要な備品購入の経費がないということでしたので、社会福祉協議会を通じ、詳細を詰めた上で最良の支援を考えてまいりたいというふうに考えております。

また、パークゴルフ18ホール化についての御質問でございますが、パークゴルフ場につきましては町民の心身の健全な発達とレクリエーション活動の普及に寄与することを目的として整備をしております。本町のパークゴルフ場は、御存じのように駅から近い立地条件のよい場所に位置していることから、18ホール化すれば多くの利用者が見込まれ、町民の方々の健康づくりや利用者の方々とのコミュニティーづくりにつながるものとも考えております。

しかし、パークゴルフ場の18ホール化に伴う課題も見受けられます。1点目にパークゴルフ場の管理者の確保、2点目に整備費でございます。また、これまでちょっと課題としておったゲートボール場の利用者の調整ということになりますが、本年5月に解散をされたというふうにも伺っております。

さて、1点目の管理団体の確保につきましては、現在パークゴルフ場はシルバー人材センターに平成31年度までの指定管理委託をお願いをしており、今後のこととなりますが、18ホール化された場合、お引き受けいただけるかどうか不透明な状況でもございます。理由といたしましては、会員が高齢化になってきたことや、さらには新たな会員が集まらないという状況などから、維持管理に不安があるというふうにも伺っております。仮に民間の事業者が指定管理を受託するとなると、指定管理料が現在よりも増加する可能性があり、利用料の増加にもつながるかというふうに懸念しているところでもございます。

ちなみに、町パークゴルフ場の平成29年度の収支につきましては、収入額が280万4,000円で、支出額は255万8,000円として、差引額がプラス24万6,000円となりますが、収入額から指定管理料123万4,000円を除くと収支はマイナス98万8,000円となっております。

2点目の整備費は、9ホールの整備だけでも、概算ではありますが、町民の皆さん方に芝植栽などの御協力をいただいても、約2,000万ほどかかるのでなかろうかというふうに試算をしております。またさらにですね、受け付けを行う管理棟の駐車場の整備も必要となった場合には、さらに整備費が多額になるということになります。町単独での費用での整備を行うことは、財政上、現状のところ厳しいということもありますので、補助率の高い国や県の補助制度につきまして調査をし、補助状況等々をですね、検討しているところでもございますが、パークゴルフ場の整備に伴って常設の散水設備を整備しなきゃならないなどの項目があって、河川内では水道施設の縦断占有ができないということもあり、ほかの補助制度の有無について今現在調査をしているところでもあります。

この件につきましては、一部の町民の方々からも強い要望がございますし、町民の健康寿命を伸ばすための施設につながることから、引き続き他の内容に

ついて国や県の補助事業を探して、もしあった場合にタイムリーに対応できるように準備を進めたいというふうに考えております。

町がこれまでパークゴルフ場の18ホール化に向け、調整していたことについては、県西土木事務所との河川占用についての調整、パークゴルフ場の先ほど申し上げたように整備費の試算、あとシルバー人材センターとの管理面での調整等々を行ってまいりました。町といたしましても、先ほど述べさせたとおり、今後補助事業を探しながら、並行してさまざまな課題を解消して、事業の見通しをつけることができましたら、パークゴルフ場の18ホール化について皆さん方に御提案をしたいというふうに考えております。以上でございます。

11番 鈴 木 再質問させていただきます。町長、ありがとうございました。今の内容でよくわかりました。本当にね、子供たちにみんな手厚くすることは当たり前のことなんですけれども、やっぱり30%、松田もね、年寄りの人が多い、30%にも達したということになれば、シニアの人たちにもやっぱり手厚くしてあげないといけないということで、今お伺いしたんですけれども。この松田町で230人しかこのクラブに入っていないということで、よく見たら、決算書を見たら、30万3,000円しかこのシニアの人たちにことし使ってないんですよ。やっぱりこれじゃね、幾ら皆さん集まって健康のためにということは、私は本当に無理があるんじゃないかと。それでね、国がひとり家庭の65歳以上にアンケートを出させていただいたら、15%の人が2週間、口きかないで、うちの中に閉じこもりっきりなんですって。それで、この間の西日本の風災のときも、避難訓練、防災無線で避難訓練の通報していても、60歳以上の人の97%はうちから出ないんですってね。こういうやっぱり年寄りになっちゃってるんですよ、みんな世間、世の中が。やっぱり松田町はそれじゃいけないということで、私は常に外へ出てみんなとお話し合いしたり、いろいろなことをやったりして、みんな楽しく、ころりといけばいいんだけど、病気しないように、そういうことをつくってあげるのが松田町じゃないかとということで、あえてここに2番目にパークゴルフとマージャンというのを出させていただきました。

この間、私ちょっと用がありまして、愛知県へ行ってきたんです。泊まりで。そうしたら、ホテルで、いや、きょういいことやってるから、ちょっと見に行

きなさいよっていったら、盆踊りやっていたの。愛知県で。それがね、八重にも九重にも輪をなつてね、踊ってるんですよ。いや、何だろうなといったらね、「ダンシングヒーロー」、二、三十年前はやった、名前、何とったかな。あの女の子…（「荻野目洋子」の声あり）あ、そうそう、荻野目洋子。そうしたらね、それがね、四、五年続いているんですって。そのね、踊ってるのが、みんな70、80、90の人ですよ。それがね、八重にも輪をなつて踊ってるから。それで、ちょっと休憩だったから話聞いてみたらね、この踊りの練習するのが楽しいんですって、体育館で。それで、それを見にね、隣の岐阜県からも来てね、今、岐阜県もやってるそうなんです。それでね、それを聞いて荻野目洋子が、その日に歌ってたんです。それで、それ聞いたので、お金幾ら出したんですかっていったら、はやめてもらっていますので、こんな昔の歌、はやめてもらっていますので、ぜひ歌わせてくださいって来たんです。その話聞いたらね、松田もね、ここ、誰もやってないから、チャレンジデーのときにね、ぜひこの、こういうので広めてね、荻野目洋子が来てもらって、例えば町長、まだ3年あるから、3年広めればさ、聞きつけて歌いに来てくれるかもしれない。そのためにみんなが集まってね、楽しいことをすれば、これも一つだろうということもあります。

それから、町長もいつも神山の納涼大会、来ていただけますね。そのときに私どもの神山の70から90までのお年寄りが、隔週水曜日、もう10年以上、カラオケクラブというのをつくって歌ってます。それをね、歌いながら、あそこで練習をして、唯一1年に一遍、神山納涼大会で、あそこでお年寄りが歌を歌う。この楽しみでみんながこのカラオケを練習してるんです。ですから、あのテレビのコマーシャル見ても、テレビ1つあって、カラオケのこれが1万円以下で買えて、このスピーカーを1万円以下で買えて、これで歌を歌えて点数が出るなら、それを福祉のほうとシニアクラブと相談して、5つか6つ買ってあげて、各地区の福祉のところ、各地区の地域集会所でね、みんなが出てきていただいて、私はそれを各地区でやって、それで最後に、暮れでも正月でもいいですよ。町民文化センターを貸してあげてね、その皆さんの日ごろの練習の成果を出してやるような一つのことをつくってあげて、楽しみをふやしてやったら、これ

もいいことだなと思います。

本当にね、パークゴルフ場も町長、2,000万もかかって、いろいろ金がかかるといことなんですけれども、近所の私の周りにみんな友達がいる、松田町じゃないんです。周りの友達が、今まで町長も知っているとおり、私、安全協会もやってましたら、みんなが来て、もう免許証、お年寄りがね、免許証いらないうって言うて来るんですよ。そうするとね、何にも遊ぶことができないんですよ、車がないと。やはりパークゴルフ場もちゃんと18ホールをつくってあげて、やはり9ホールじゃみんな行かないそうです。18ホールあって初めてパークゴルフ場だということで、18ホールをつくっていただいて、来るということなんで、お金が云々でなく、私、18ホールつくれば、恐らく今、赤字が、24万6,000円いただいている、もうかっているんですけれども、経費を入れれば赤字だということなんですけれども、これが18ホールにすれば、もっと浮いてくると思うんですよ。ですから、そういうところもひとつ入れていただきたいと思います。

それからですね、定期監査やって、町長がきょう、行政報告で7年ぶりに松田町、優勝したと。それで、サッカーも1位になったということ、きょう町長、行政報告で言っていましたね。きのうか。きのう言っていました。それでね、私、定期監査で松田中学校行ったら、今ね、サッカー部ができないんですって。野球部もできなかったのが、ここでやっとできた。今、松田って、こんな状況なんですか。私、びっくりしてね、まさかサッカー、それで優勝したなんていうのを聞いたら、サッカー部ぐらいできなきゃないうことで、もうそれはね、今、私がこうしゃべってたんですけれども、やはり今回、310万かけて2世帯の人が14組ですか、松田に帰ってこられたとあって、2世帯のために310万。やっぱりね、年寄りがしっかりして元気ならば、孫の子守も見れる。そういう町にしないといけないと思うんですよ。そのためには、絶対的に町が主導で、シニアクラブの人たちと一緒に、協力していろいろなことにチャレンジをしていただきたいんですけど、そういう考えはございますか。

福 祉 課 長      シニアクラブ松田、このところですね、社協が事務局ということで、少しちょっと距離があったようなところがあるんですけれども、このところ何度か

総合計画のヒアリングとかですね、いろんなところを通じながら、現状、それと今、本部のほうがですね、先ほどお話ししましたとおり、直轄会員といったような、いろいろな手法をつくりながらですね、どんどん会員をふやしていこうという意向でいらっしゃいます。やはり先ほど言われたとおりですね、運営費補助的なものが三十何万出してるんですけども、御自分の楽しみということで、今、御自分のお金でやってるようなところもございます。そういったところも含めまして、やはり閉じこもりを防止するというのは、高齢者施策としては非常に重要なテーマでございますので、シニアクラブさんのお力、シニアクラブさんだけではなくてですね、いろいろ各種団体いらっしゃいますけれども、そういったものも含めて、その活力というんですかね、その力を最大限発揮できるようにかわりながら、またお金のほうは理事者のほうと相談しながらやっていきたいという考えでおります。

町 長 そうですね、やはり御高齢の方々だけでなく、やはり安全・安心な町ということになると、やっぱり何だかんだいっても、地区に身内がいるというのが一番安心だと思うんですね。そういった面でいくと、やはり若い人たちが出っ放しで、戻ってこないということだと、やはり松田町の人口減少がとかというふうなところが、やはり魅力とかですね、そういったところがやっぱりあるんで、今現在、知恵を出しているいろんな施策の中で、奨励金を出しながらやったりとかしているところでもありますので、やはり御高齢の方々が安心して住むためにも、引き続きですね、若い人たちが帰ってきやすい地域づくり、またどうしても、なかなか帰ってこられないということもあるならば、ひとり世帯だとか、そういった人たちが横のつながりと、あと世代間の交流をですね、やっぱりしていくようなことを、我々としてもいろいろ知恵も出しますけど、地域の自治会の方々ともですね、またさまざまな福祉の方々とも連携しながらやっていきたいと思います。特にシニアクラブさんは、今の課長の話もありましたように、非常に前向きで、なくなろうとしたところを名前を変えて、仕組みを変えてでもやっていこうというふうにやられている団体なので、しっかりと御意見を聞きながらですね、やっていきたい。ただ、非常にいいことかどうかはあれですけども、なるべく自分たちでやりたいという気持ちがあられるんですよ。



なので、困ったら相談するからと。費用の面もそうですけど、我々としてお手伝いできるところは、やる気があって一生懸命やられているところに対する支援は、今後も惜しみなくやっていきたいというふうに思っていますので、今後でもありますね、そういった御意見、何かあれば御提案いただいて、一緒にいいまちづくりができればなというふうに思っています。以上です。

11番 鈴木 ありがとうございます。やっぱりそうしてやっていただきたいと思います。また、政策推進課長、14組の2世帯の人たちが入ってこられて、そのために20万、30万を出してるということなんですけど、どういう人たちが松田町に入ってきているか、ちょっと教えていただきたいと思います。

政策推進課長 2世帯同居支援ということで、住宅を購入あるいは2世帯で新居するというものの事業で、平成27年度からですね、始めております。そのときですね、さまざまなアンケートをとっています。戻られた理由とか聞くと、やっぱり交通の利便性と、経済的支援というのが結構多いんですね。経済的支援で、やっぱりおじいちゃん、おばあちゃん、一緒に住みたいとか、そういうことで安心して暮らすために、やっぱり今の若い世代が戻ってきてる。主なものは親に対しての経済的支援と松田のやっぱりここで住んだということも第2のアンケートの結果として上がってますので、そこはしっかり受けとめて、町の中ですね、情報共有しながら、まちづくり施策として取り組んでいきたいというふうに思ってます。

11番 鈴木 ぜひよろしくをお願いします。もうさっきもしゃべらせていただいたんですけど、年寄りがね、孫の子守していただければ、若い人も働けてできるということで、そのためにも年寄りがやっぱり元気じゃなきゃいけないということです。

ことはねりんピックはね、富山県です。その富山県がね、27種目、11月にあるんですけど、27種目を15市町村で開催します。2021年が神奈川県になります。その中でもすばらしいのがいっぱいあります。よくこういうのを思いついたなというね、後でお渡しさせてもらいますけども、こういうね、ことを考えられたなということがありますので、2021年は神奈川県でございますから、ぜひこれを後で渡しますので、よろしくお願いたしたいと思います。

あと、教育課長、サッカーなくていいんですか。どうしたらサッカー一部がで

きるように、まあこれはしょうがないけど。校長先生ね、喜んでた。サッカー部も野球部もないと、先生がそれに携わらなくて済むから、喜んでた。あれじゃね、絶対サッカー部できないと思ったけど、教育課長、どう思う。ちょっと。

教 育 課 長 野球部、サッカー部につきましては、4月の時点では野球部は19人おりました。3年生が卒業したので、現在は14名ということで捉えております。野球は継続ということで。サッカー部につきましては、4月の時点で13人ということで、8人、3年生は卒業したということで、5名ということで、ここで存続はできなくなったということを監査のときに聞いたと思われま。こういったメジャーなスポーツですので、また少年から、少年のそういったクラブから、またこういう中学校へ行って引き続き運動し続けるといったものもごございます。また、部活動をやることによりまして、心身ともに鍛えられるといったものもごございますので、運動部には全体的には今年度84%ぐらい入っていますが、部活になるべく入って、青春の思い出というか、スポーツ、文化、そういったものに励むように、引き続き学校にも意見交換をしながら推し進めていきたいと思っております。以上です。

1 1 番 鈴 木 よろしくお願ひします。歴代ずっとあったサッカー部とか野球部がなくなるというのも、これも大変寂しいことなので、ぜひ頑張って、入っていただくように。そのためには、2番の田代議員も言ったけど、生産年齢人口の人をふやしたり、やっぱり年寄りが元気で、2世帯に入っていただくような形で、みんなが頑張って、それで子供たちが安心して学校へ行って、サッカー部もできる、野球部もできる。今、バスケット部は廃止になっちゃってるというのを聞いて、がっかりしてますけど、私、背小さかったから、野球部へ入りたかったけど、バスケット部入って、高くなりたくて、バスケット部入った覚えがある。そのバスケット部も廃止になっちゃってるというのを聞いたら、これはやっぱりね、寄の中学校の人たちがクラブやりたくて来て、これがないんじゃない、もうあれだから、ぜひこのところはハッパかけても何してもいいし、子供たちが入ってもらってもいいから、存続させていただくように、よろしくお願ひをしたいと思います。

また政策推進課長、2世帯がうんとふえるような、一生懸命努力して、頑張

っていただいて、みんなに入っていただくような、そっちからも松田に帰ってきていただくような対策をとっていただきたいと思いますので、よろしく願いをして、終わらせていただきます。

議

長 以上で受付番号第9号、鈴木眞徳君の一般質問を終わります。